

【日時】2007.7/28 ~ 29

【県名】岐阜県

【山名】白山

【ルート】平瀬道・室堂・山頂・ゴマ平避難小屋(泊)・北縦走路・鶴平新道

【メンバー】石野・玉田・大塚・大倉・大本・松阪・松尾

【装備】山小屋一泊装備

【天候】曇り

PLAN

日程 28(土)29(日)

集合時間 大塚P AM 2時半・石野P AM 3時・大津SA 4時

コース 平瀬道～山頂～ゴマ平小屋泊～北縦走路～鶴平新道

地図時間 28日=9時間・29日=8時間

内容 車2台で東海北陸庄川下車後158号156号で白川郷の馬狩で一台を駐車後平瀬の大白川へ移動(約90分)

メンバー 石野、大塚、玉田、大倉、大本、美幸、香織の5名、2名

車 玉田車、大倉車

バタヤン曰く「福井、石川、岐阜から登らずして白山を征したと言うがなかれ」

いざ出陣!



今回ほど色々なドラマがありすぎた縦走山行も珍しいだろう。

福井、石川、岐阜の三県にまたがる白山。その内で最もアプローチの遠い岐阜県側からの縦走が残されていた。縦走形式はまず交通手段をどうするかが一番の問題になる。

そこで車2台を交通の足にと、1台を下山付近に止めておく計画にした。また今回は縦走未経験の可憐な女性二人が加わる。



ハクサンコザクラの群生

28日

2:30 姫路発、玉田号で私、大本、松坂が便乗

3:00 加古川合流、石野氏便乗

4:00 大津SA合流、大倉号、松山便乗

8:00 名神 東海北陸荘川IC下車、平瀬着。玉田号を下山口の白川郷の馬狩に移動。

石野、私、大本の三人は空身で白山公園線を歩行

9:10 平瀬道登山口スタート 1260m

大倉号に先発隊三人も便乗して平瀬登山口へ移動

すでに駐車場は満車状態。おまけにマイクロバスが平瀬よりピストン運行しているので思ったより登山者があふれていた。

天気は晴れたり曇ったりでまずは大倉避難小屋まで…。

2 2 2 大倉避難小屋着 2038.6m 小休止

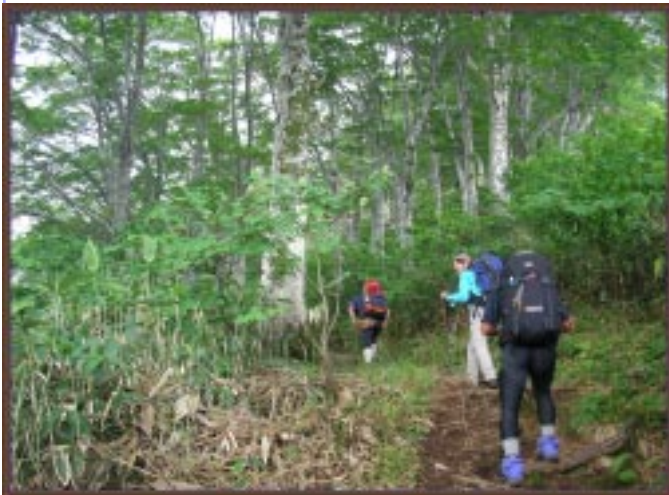
ここまではさほどアップダウンもなくブナ林やダケカンバに囲まれて先行く登山者をドンドン抜かして女性達もまだ疲れて様子はない。

3:00 室堂着

避難小屋を後にすると目の前に急坂の登りが見え出してくる。女性達は少し尻込みするが、躊躇せずに前進あるのみ。

この頃から高山植物がちらほらと現れだし、疲れた体が癒される。ニッコウキスゲ、トラノオ、ハクサンフウロ、チシマキキョウ、コイワカガミ等々、色とりどりの花が山頂へと誘ってくれている。

永峰パーティからの無線のシグナルらしきものが断続的に入ってくるが、それらしき会話にはならない。でも彼等も登ってきてるは確かである。彼等やバタヤンはメインルートの新道から登ってきている。今年は三月に降った雪がよく積もっているのか、残雪がとても多い。ヒルバオ雪渓などはとても豊富である。



ブナ林に囲まれて



ダケカンバ帯



大倉避難小屋



室堂大鳥居

室堂に着くとそこは大賑わいで日曜日の買い物ラッシュのようすで老若男女が入り乱れてごった返している。ほとんどがメインルートの新道から登ってくる登山者である、当然にこの

15:25 ヒルバオ雪渓横断
急坂を降りるとまずは雪渓横断である。昨年よりもとても残雪が多く風雨によって見事にスプーンカットされてカチカチに氷化している。



ヒルバオ雪渓横断

ストックで三点支持できなければスムーズに雪上を渡れない。

ルートは蟻の行列と化しているであろう。今夜の室堂山荘は畳一枚に三人は寝かされるであろう。

天気は終止ガスが飛来して小雨混じりで外に出れば寒いくらいだ。当然にここから山頂は見えない。

白山の仙人バタヤンと室堂の鳥居の前で13時から14時に合う約束であったが天気も芳しくないで、ビジターセンターの伝言版に(13時半ゴマ平小屋に向かう)と書置きして出発することにした。

永峰パーティとも結局会われなかった...もう下山したのだろう。

14:00 御前峰山頂 2702m

相変わらず山頂まで登山者の行列が続き、山頂もガスの中で大混雑だ。早々に通過して雪渓に囲まれた血の池、翠ヶ池を巡るがそこにも大名行列である(>_<)

: 大汝峰直下の分岐

ここまで来ればやっと大行列から解放される。さあここからはまず人には出合わない中宮道へと足を向ける。

15:50 お花松原

今日の疲れはこの為に癒されるのだ。今年も時期がタイミングよく合って、日本一のお花畑と唄われるだけあって、ここを通る者は誰も素通り出来ない。それ程に素晴らしくて美しいのである。

白山名物のハクサンコザクラとクロユリの大群生は見事としか言い様がない。希少価値のクロユリもここへくれば値下がりしてしまうほどであ



お花松原

る。そのほかに多種多様の高山植物が乱舞している。日本広しと言えどこんな美しいお花畑はそう見ることが出来ないであろう。

16:30 北美陀ヶ原

小ピークを越えて八エマツ帯を過ぎて行くと地塘のある北美陀ヶ原に辿り着く。ハクサンコザクラが地塘を囲み、その花



池塘とハクサンコザクラ



コバイケイソウと雪渓

ピラがそよ風になびきコーラスでも歌っているように池に写っている。

この辺りから香織嬢と大倉氏が遅れだしてくる。まあお似合いカップルなので装備も充実しているので先を急ぐことにする。

北美陀ヶ原を過ぎると西側に地獄尾根を見下ろす地獄覗があり、少々下ってから、ウグイス平に辿り着く。ここはニッコウキスゲ

の大群落で黄色い小さなラッパが一斉にこちらを向いて、微笑みかけているようだ。

そこから少々登り返して間名古の頭2139mを巻いて三又峠を経て、ゴマ平へと向かう。この峠で美幸嬢と玉ちゃんが少々疲れだしてきたので二人の空の水パックを持って大本と二人で先頭の石野氏を追うことにする。

18:30 ゴマ平避難小屋着 1850m

三俣峠からはほとんど平行移動なのだが、左側から笹がせり出して右側は落ち込んでおまけに狭い足元も見えにくいしまつで慎重極まる。しかしその中を小走りでドンドン突進で行く、高度は2400mからほとんど下がらない。そろそろ急降下してもいい頃だと思ったら



ゴマ平避難小屋

下から石野氏の鈴の音が聞こえ出ししてきた。やっとのことで追いつき小屋へ到着。

ゴマ平避難小屋にて石野、私、大本の速足グループでも室堂から5時間もかかってしまった。(地図計算では5°10')。室堂から大汝分岐までの大行列、お花松原での撮影会 etc を入れたらこんなもんか。



クロユリ

しかし後続の2パーティはいつになることやら(>_<)誰も居ないと思ってた山小屋の扉を開けると1階に3人、2階に6人も先客がいてすでに寝る体制に入っているではないか!、これには計算外で参ってしまった。とにかくこの小屋の収容人数は25人なので詰め

てもらうしかない。その間に我々はメンバーの今夜の水を沢まで汲みに行くことにする。

二階の半分を開けてもらいザックを片付けていると、7時に玉田、美幸組が辿り着いた。後の二人はヘッデン行動になるので、まだ当分着かないだろう。

5人で夕食の準備に取り掛かり、当然のように話が盛り上がる。そこに間髪をいれずに、『うるさいです、静かにしてください』とカン高いオバハンの声が……「お前の声のがデカイやろっ!」と言い返したかったが、ここは我慢強く「すみません」の連発であった。そんなやり取りが2~3回続き、8時にやっと大倉、香織組が到着した。彼等はもうへろへろ状態である。真っ暗闇のヘッデン歩行は余計な体力を消耗するのだ。

全員そろったところで再び乾杯となり、自然と声も大きくなるのはごく当たり前の事で、またもや『うるさい』『すみません』のやり取りが続く。この10年分は「すみません」を連発しただろう。

山やである以上は基本的に寝るときはどんな状態でも寝る事ができなければ、規則的な有料小屋に泊まればいいのだ。もしこの場にバタヤンが居れば鬼気迫る気迫で6人パーティは泣きを見ていただろう。

何はともあれ、そんな鼻クソみたいな馬鹿らしい事よりも全員の元気

な顔を見れたことが何よりも大きな喜びである。

29日

5:30 起床

眩しい朝日が差し込んで清々しい朝を迎えた。昨夜の6人パーティは早々に出発したようだ。

朝から肉料理で力を蓄える。今日の行動は高度的にはほぼ平行移動だが、アップダウンが多数あって太陽が照り続けばバテるのは目にみえている。

7:10 下山開始

色々とあったゴマ平小屋を後にして、すぐ近くの沢で補給。沢筋を上がって背丈はあるクマ笹をかき分けて進む。夜露で腰から下がびしょ濡れである。



笹をかき分けて

8:30 鉄橋

シラビソ帯を抜けるとシンノ谷の鉄橋を渡り念仏尾根の急坂に取り付く。ここで来たルートを図確認するが樹林帯の中を下ってきたので今一つハッキリしたルートが分らない。



シンノ谷鉄橋

稜線に出るとササユリが登山道の両端にポツリポツリと咲いていて心がなごむ。この稜線からは御嶽山や穂高連峰を眺めながら散策できるのだが、ガスがかかり全く見えない。しかし、ガスもなく、太陽が容赦なく照り出せば高々1700mの稜線と言えども体力の消耗度は計り知れないだろう。景色が見えるのも一長一短である。

9:40 妙法山山頂 1775.6m 小休止
急坂を登り詰めると三角点のある妙法山へ。相変わらず東側はガスっている。北側には4つのピークが見えている。その一番奥が野谷庄司山1797mである。地図時間で2時間。登り下りの連続である。ここからはマイペースの速足で行くことにする。

10:50 もうせん平
中間地点の神庭池に到着。地塘の周りには食虫植物のモウセンゴケがびっしりと生えて、ニッコウキスゲやコバイケイソウが咲き誇っている。この辺りから登山道の両側を草刈機で手入れしており、頭の下がる思いで歩かせてもらう。

12:00 野谷庄司山 1797.3m 小休止

妙法山への急登



神庭池

自分のペースで歩いているのでさほど疲れもないが、大倉氏は運動不足でかなりへばっている様子でバケツをひっくり返したような大汗を体中から噴き出していた。空が曇っていて幸いである。

さあ、ここからは鶴平新道の下りで一気に1000mの高低差を下る。

13:15 下山完了

石野、私、大本の速足組で延々1時間半ほどだ。膝が笑うほどの急坂で程よく太股が張っている。楽々新道は1800mの一気下りなのでこんなものではない。

ここで始めてバタヤンと地上連絡が取れた。彼は先週に二度も夜中行軍で40kgの砂袋を担いで白山ヘトレーニングに行く、昨日はその疲れが出て甚ノ助小屋で待機して、今朝方に平瀬道へ下山したと言う。何はともあれ無事で何よりである。何せ山での別行動での合流は連絡が取れないので非常に危険で難しいのである。

45分ほど遅れて玉田、美幸組が下山してきた。大倉、香織組は当分かかるので、玉ちゃんと二人で彼の車を平瀬登山口まで取りに行く事にするが、ここでまたアクシデント発生。スペアキーで彼の高級車を動かそうとするが全く



鶴平新道へ下る



下山終了



下山後の笑と疲

にエンジンキーが回らない。一体何のために30かけてここまで来たのか(´へ`#)

油代と時間のロスもいい所である。仕方ないので再び馬狩まで引き返す。私は途中の平瀬の温泉でバタヤンと合流する。二度手間を踏んで全員が温泉で合流したのは17時を回っていた。

結局今回は色々なドラマに振り回されて帰郷は0時であった。

何はともあれ白山を跨ぐ三県、福井、石川、岐阜からの完全走破達成である。

それから三週間後、バタヤンが我々と別れたその夜に自宅の風呂場で心臓発作で亡くなったと訃報が届いた

逝く間際はきっと我々との楽しい思い出を浮かべていたに違いないだろうと思うと、なんとも言い表せない涙が込み上げてくる。

ご冥福を祈ると共に天国でも白山の仙人として活躍していることであろう。

平瀬温泉でバタヤンと合流



9月には白山追悼登山に行きお梅やみをあげに行く。合唱。